

イスラエル

State of Israel

		2008 年	2009 年	2010 年
①人口: 772 万人 (2011 年 2 月現在)	④実質 GDP 成長率 (%)	4.2	0.8	4.6
②面積: 2 万 2,145K m ²	⑤貿易収支 (米ドル)	△132 億 1,070 万	△48 億 6,300 万	△77 億 3,420 万
③1 人当たり GDP: 2 万 8,686 米ドル (2010 年)	⑥経常収支 (米ドル)	15 億 2,500 万	70 億 6,300 万	66 億 9,700 万
	⑦外貨準備高 (米ドル)	425 億 1,320 万	606 億 1,140 万	709 億 0,730 万
	⑧対外債務残高 (米ドル)	883 億 6,500 万	932 億 9,500 万	1,060 億 8,300 万
	⑨為替レート (1 米ドルにつき, シュケル, 期中平均)	3.5880	3.9323	3.7390

〔注〕②:ヨルダン川西岸・ガザ地区を除く。ゴラン高原, 東エルサレムを含む
 〔出所〕①⑤: イスラエル中央統計局 (CBS), ②: イスラエル外務省, ③⑦⑨: IMF, ④⑥⑧: イスラエル中央銀行

金融危機後の低成長から力強い回復

2010 年のイスラエル経済は、民間消費支出が前年比 4.9%、固定資本形成が 12.4%伸び、実質 GDP 成長率は 4.6%と、金融危機の影響を受け低迷した 2009 年 (0.8%) から、大幅な回復を見せた。民間消費支出では自動車 (21.7%増) や家具 (7.8%増) を中心とする耐久消費財が 10.6%増加した。2010 年の新車販売台数は前年比 25% 増の 21 万 6,430 台と、史上初めて 20 万台を突破し好調だった。2010 年 1 月から VAT が 0.5 ポイント引き下げられ 16.0%となったことも、多少のプラス要因にはなったが、主に国内景気の全般的な好調さが販売台数の伸びを後押ししたと見られる。固定資本形成は企業設備 (12.7%増)、住宅建設 (11.7%増) がともに伸びた。一方、輸出入では、ダイヤモンドや工業製品の増加で財・サービス輸出が 12.8%と大幅に増加したものの、国内経済の回復に伴い、輸入は輸出の伸びを上回る 14.5%増となった。産業別では、製造業 (前年比 7.8%増)、建設業 (7.1%増)、商業・飲食・宿泊業 (6.3%増) が好調だった。

2010 年の消費者物価上昇率は、住宅価格上昇などの影響を受け、政府目標圏 (1~3%) を超える 3.4%となっ

た。中央銀行はインフレ抑制のため 3 回の利上げを行い 12 月末の政策金利を 2.0%としたが、2011 年に入ってもインフレは 4%前後と目標圏外で推移している。国内では不動産バブルやさらなるインフレを懸念する声もあり、中銀は引き続き金融引き締めを図っている。

2011 年第 1 四半期も、輸出入ともに伸びており、2011 年も国内経済は好調が続くとの見方が大勢である。年始からのチュニジア・エジプトに端を発する中東民主化運動は、イスラエルに直接飛び火する可能性は低い、エジプトからの天然ガスの供給が一時停止されるなど、経済的な影響として波及している。また、ドル安傾向が長期に渡り続いていることが、輸出産業における今後のリスク要因と言える。

輸出入が拡大、対中国・インド輸入が増加

イスラエル中央統計局 (CBS) によると、2010 年の貿易は、輸出が前年比 21.9%増の 584 億 3,060 万ドル、輸入が 24.8%増の 591 億 2,240 万ドルとなった。輸出入とも 2008 年の水準 (輸出入共に 600 億ドル超) には及ばなかったが、それぞれ大幅な伸びを示した。慢性的な貿易

表 1 イスラエルの主要品目別輸出入<通関ベース>

					(単位: 100 万ドル, %)				
	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2009 年	2010 年				2009 年	2010 年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
工業製品	44,398.8	53,621.6	91.8	20.8	原材料	31,920.6	41,620.0	70.4	30.4
化学製品	10,383.8	13,946.6	23.9	34.3	機械・電子産業向け原材料	6,526.6	7,816.2	13.2	19.8
石油製品	349.4	462.4	0.8	32.3	化学素材	3,585.5	4,231.4	7.2	18.0
通信・光学・医療・精密機器	6,730.8	7,567.5	13.0	12.4	ゴム・プラスチック	1,569.8	2,047.2	3.5	30.4
電子部品・コンピュータ	4,801.7	4,212.8	7.2	△ 12.3	ダイヤモンド(未研磨)	2,660.3	4,048.1	6.8	52.2
ゴム・プラスチック製品	1,527.5	1,615.6	2.8	5.8	ダイヤモンド(研磨済み)	2,657.8	4,342.2	7.3	63.4
輸送機器	2,369.6	2,351.3	4.0	△ 0.8	燃料	8,072.7	10,445.5	17.7	29.4
機械・機器	2,329.8	2,518.9	4.3	8.1	投資財	7,788.5	8,796.8	14.9	12.9
ダイヤモンド(研磨済み)	9,430.9	12,957.7	22.2	37.4	機械・機器	5,279.2	5,680.2	9.6	7.6
ダイヤモンド(未研磨)	2,168.0	3,440.5	5.9	58.7	輸送機器	2,509.3	3,116.6	5.3	24.2
農産品	1,229.9	1,359.5	2.3	10.5	消費財	7,600.8	8,624.6	14.6	13.5
					家具・家電製品	1,894.2	2,072.5	3.5	9.4
合計	47,935.5	58,430.6	100.0	21.9	合計	47,368.2	59,122.4	100.0	24.8

〔出所〕表 2 と同、イスラエル中央統計局 (CBS)。

表 2 イスラエルの対日主要品目別輸出入＜通関ベース＞

(単位:100 万ドル, %)

(単位:100万ドル、%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2009 年		2010 年			2009 年		2010 年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
化学製品	98.0	113.7	17.3	16.0	化学製品	89.1	134.2	7.5	50.6
宝石・貴金属	57.0	52.1	7.9	△ 8.6	プラスチック・ゴム	61.4	85.5	4.8	39.3
卑金属	46.7	96.2	14.7	106.0	機械・電気機器類	249.5	275.7	15.5	10.5
機械・電気機器類	136.6	145.9	22.2	6.8	輸送機器	999.8	1,138.1	64.0	13.8
光学・医療機器	127.5	166.6	25.4	30.7	光学・医療機器	81.6	75.0	4.2	△ 8.1
合計	527.6	655.8	100.0	24.3	合計	1,523.7	1,779.4	100.0	16.8

赤字の構造には変化は無い。2009 年に大幅な減少を見せたダイヤモンドの輸出入が、2010 年は研磨・非研磨共に回復し、貿易額全体を押し上げている。取引額自体は 2008 年の水準には至っていないが、世界的なダイヤモンド市場の流通拠点であるイスラエルの市場が徐々に回復しつつあると言える。

輸出を品目別にみると、主要製品の化学製品が好調で、前年比 34.3%増となった。ハイテク分野では、通信・光学・医療機器・精密機器が 12.4%増と順調な伸びを示した。輸入は、機械・機器、輸送機器(自動車)などの投資財や、家具・家電製品などの消費財が大きく伸び、特に消費財は、近年の中でも高い水準を記録した2008年と比較しても 4.7%増と、国内消費市場の好調さを反映している。

国・地域別に貿易相手をみると、輸出の約 60%、輸入の約 45%が欧米である。ここ数年伸び続けているアジアからの 2010 年の輸入額は、前年比 23%増となった。特に、中国からの輸入が 96%増、インドも 60%増と大幅に伸びた。中国からは機械等を中心とした工業製品の輸入が伸びているのに対し、インドからは、約 6 割をダイヤモンドなどの貴石類が占めている。貴石類は 76.9%増となり、2010 年の対インド輸入額全体の伸びを牽引した。

■ 投資全体は回復、対外投資が対内を上回る

2010 年の対外直接投資は、前年比 4.6 倍の 78 億ドル、対内直接投資は 16.2%増の 52 億ドルとなった。2006 年以来 4 年ぶりに、対外投資が対内投資を上回った。

対外投資の事例としては、世界的なジェネリック医薬品企業のテバファーマスーティカル・インダストリーズ(以下、テバ)が、独ラティオファームを約 36 億ユーロで買収した案件がある。このほかイスラエル・ケミカルズが米国スコッツ・グローバル・プロフェッショナル・ビジネスを約 2 億 7,000 万ドルで買収するなど、イスラエル大手企業による大型買収案件が見られた。報道等によれば、国内不動産関連企業による海外不動産物件取得も、対外投資増加の要因となっている。

2010 年の対内直接投資では、デル、オラクル、グーグ

ル、インテル、ヤフー、ゼネラル・エレクトリック・ヘルスケア、AOL 等の案件があった。1 億ドルを超える大型投資は IBM, スリーエム, PMC シエラ, メラノック・テクノロジーズ, ロシェであった。アジアからは、中国企業による半導体関連企業への投資(約 6,000 万ドル)、インド企業による通信関連企業への投資(約 1,500 万ドル)などがあった。

■ 対日輸出は 24.3%増、対日大型投資案件も続く

CBS によると、2010 年の対日貿易は輸出が前年比 24.3%増の 6 億 5,580 万ドルで、イスラエルの輸出全体の 1.1%、輸入が 16.8%増の 17 億 7,940 万ドルで、輸入全体の 3.0%を占めた。輸出入いずれも大幅に増加したが、2008 年の水準には至っていない。

イスラエルから日本への主要輸出品目は、機械・電気機器類(構成比 22.2%)や光学・医療機器(25.4%)であった。主要輸入品目は輸送機器(自動車)で全体の半分以上を占めた。ただ、輸送機器については日系の輸入販売代理店が、東日本大震災の影響により今後日本車の納車(輸入)が遅れるとの見方を示していることから、今後の対日輸入動向に大きな影響を与える可能性がある。

対日投資では、2010 年中に大きな案件はなかったが、2011 年に入り 4 月にはイスラエルの半導体メーカー大手のタワー・ジャズ社がマイクロン・ジャパン社を約 1 億 4,000 万ドルで、5 月にはテバが大洋薬品工業を約 4 億 6,000 万ドルで買収する大型案件が続いた。